

2024 最終 京大本番レベル模試（文系）

採点基準

■現代文 採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 得点箇所漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。
- ③ 部分点としての要素はあっても、全文体として内容が変わるような場合は得点できない。

一 現代文 50点

問一 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

筆者の研究所でレッスンを受けているうちに、感情のようなものの表出が拡大してきて、少女の内から自分

でも気づいていなかった

自分が現れてきたから。 (8点)

◎採点のポイント

A 「筆者の研究所でレッスンを受けているうちに」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

○ 「他者との交流を通して」などの表現でも可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

B 「感情のようなものの表出が拡大してきて」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C 「少女の内から自分でも気づいていなかった」 (2点)

○ 「少女の内から」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「自分というものが現れてきた」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「…から・ため…ので」といった文末表現が原則。

▲理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問二点

■形式上の不備

・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇1点

B〇2点

C〇2点

夢中になって体を動かしたり、長いせりふを読んでみたりすること、自分の内部に動いている、今まで気

D〇2点

E〇3点

づかずにいた自分そのものに気づき、そのような自分を他者に何とかして伝え理解してもらおうと思

める地点。(10点)

◎採点のポイント

A「夢中になって体を動かしたり、長いせりふを読んでみたりすること」(1点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

○「何かをきっかけにして」等、一般化して表現しているものも可。

B「自分の内部に動いている」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C「今まで気づかずにいた」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D「自分そのものに気づき」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E「そのような自分を他者に何とかして伝え理解してもらおうと思いはじめ」(3点)

○「そのような自分を」はなくても可。

○「伝え」「理解してもらおう」はいずれか一つがあれば可。

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△「思い始める」に相当する説明を欠く場合は2点。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F「:地点」という文末表現が原則。「地点」について説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば可。

▲適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A○1点

B○1点

C○2点

D○2点

自分の中に動いているものを明確に自覚したのに、それが他者にうまく伝わらない時に、他者が理解し得る

E○2点

適切な言葉、その組み合わせや発声を探り始めること。

A 「自分の中に動いているものを」 (1点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

B 「明確に自覚したのに」 (1点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

○ 「表出したのに」等でも可。

C 「それが他者にうまく伝わらない時に」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「他者が理解しうる」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「適切な言葉、その組み合わせや発声を探り始める」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 文末表現は「…こと」という形が原則。

▲不適切であると判断される場合は1点減点。

問四 10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇1点

B〇3点

C〇1点

D〇2点

自分を表現するために、自分と他者が共通に理解し得る表現の形を見つけ出し、それを自分の内部に動

E〇3点

いているイメージや感情とうまく適合させるあり方を探り、さらにそれを他者も理解し得るはずだという手

応えにつなげていく作業。

A「自分を表現するために」(1点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

B「自分と他者が共通に理解し得る」(3点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△「自分と…共通な」に相当するニュアンスを持つ説明を欠く場合は2点

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C「表現の形を見つけ出し」(1点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば広く許容して可。

D「それを自分の内部に動いているイメージや感情とうまく適合させるあり方を探り」(2点)

○「イメージや感情」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E「それを他者も了解し得るはずだという手応えにつなげていく」(3点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 文末表現は「…作業・こと」という形が原則。

▲「作業」について説明した答案の文末表現として不適切であると判断される場合は1点減点。

問五 14点

■形式上の不備

・文末表現は要素H参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A○3点

B○2点

学校生活や学校の機能を活性化させるための刺激物などではなく、それによって人が人間になる過程として
C○2点 D○2点 E○2点

人間にとって最も根源的なものであり、生き生きとした全身的な働きとしての 子供の想像力を喚起するた

F○1点

G○2点

めの一つの入口であって、科目の境界を越えた あらゆる学習の土台となるもの。

◎採点のポイント

A 「学校生活や学校の機能を活性化させるための刺激物などではなく」 (3点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 「活性化させる」に相当する説明を欠く場合は2点・

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

B 「それによって人が人間になる過程として」 (2点)

○ 「人間になる」とは「他者と関係を確立する」という意味である。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C 「人間にとって最も根源的なものであり」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「生き生きとした全身的な働きとしての」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「子供の想像力を喚起するための一つの入口であって」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

○ 「子供の想像力を喚起する」の要素があればよい。「一つの入口であって」の要素の有無は不問。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 「科目の境界を越えた」 (1点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

G 「あらゆる学習の土台となるもの」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

H 文末表現は「…もの」という形が原則。「表現活動」について説明した答案の文末表現として不

適切であると判断される場合は1点減点。

問一 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇1点

B〇2点

C①+

D〇2点

美禰子の内面の矛盾を前時代の秩序と規範との関わりで解釈した与次郎に対し、そこに他との関係の中で

E〇2点

+C②〇1点

自らを律する自意識という観点を三四郎が新たに提示したこと。

◎採点のポイント

A 「美禰子の内面の矛盾を」 (1点)

○ ほぼ同内容の「矛盾」に相当する説明がなされていると判断できれば可。

B 「前時代の秩序と規範との関わりで解釈した」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C ①「与次郎に対し」+②「三四郎が新たに提示した」 (1点)

○ 与次郎と三四郎の考えが対比されていることが読み取れれば可。

D 「他との関係の中で自らを律する」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「自意識という観点を」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 文末表現は「…こと」という形が原則。

▲不適切であると判断される場合は1点減点。

問二 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

美禰子に落ち着きを与えた自意識が、自意識の届きえぬ領域の存在を彼女に知らしめ、その結果そこから現

D〇2点

れる不可測な衝動に彼女が自己の乱暴さを認知したこと。

◎採点のポイント

A 「美禰子に落ち着きを与えた自意識が」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

B 「自意識の届きえぬ領域の存在を彼女に知らしめ」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C 「そこ(＝自意識の届きえぬ領域)から現れる不可測な衝動に」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「彼女が自己の乱暴さを認知した」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 文末表現は「…こと」という形が原則。

▲不適切であると判断される場合は1点減点。

問三 12点

■形式上の不備

・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○1点

B①+

C○2点

D○3点

人間に自意識というものを自覚させた近代であるが、その背後には、時代を超えて人の言動を宰領する、

E○2点

F○3点

+B②○1点

人間にはうかがい知れない天意というものが存在し、それが永遠なる人間の自然を統括すると漱石は考えていたということ。

◎採点のポイント

A 「人間に自意識というものを自覚させた」 (1点)

○ 「近代」の修飾句としてほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

B① 「近代であるが、その背後に」 +② 「漱石は考えていた」 (1点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば広く許容して可。

* 漱石が近代の底流にあるものを洞察していたというニュアンスさえ読み取れば可。

C 「時代を超えて」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「人の言動を宰領する」 (3点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「人間にはうかがい知れない天意というものが存在し」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 「それ(＝天意)が永遠なる人間の自然を統括する」 (3点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 「永遠なる人間の」に相当する説明を欠く場合は2点

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

G 文末表現は「…こと」という形が原則。

▲不適切であると判断される場合は1点減点。

問四 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「心」という語は不可知の範囲を含む人間内部の大きな領域を意味し、
B 漱石はそうした人間の内面を凝視
C
D
E し、「こころ」という小説でそれを表現しようとしたから。

◎採点のポイント

■要素A 「『心』という語は」…1点

- ・「心」という語の意味説明がなされていると判断できれば可。

■要素B 「不可知の範囲を含む」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「人間の内部の大きな領域を意味し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「漱石はそうした人間の内部を凝視し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「『こころ』という小説でそれを表現しようとした」…1点

- ・「『こころ』という小説で」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素F 「…から・ため・ので」といった文末表現が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五 14点

■形式上の不備

・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ可。

A〇3点

B〇2点

C〇3点

自分の内部に人間には不可知の領域があるという認識によつて、自分を包み込む大いなるものへの謙抑、

D〇2点

E〇2点

畏怖の念が人間の内に生じ、そこから自分の無力さを思い知らされ、また、自分の意思では制御し難い罪を

F〇2点

犯すかもしれないという怖れを人間が抱くことになると考えられるから。

◎採点のポイント

A 「自分の内部に人間には不可知の領域があるという認識によつて」 (3点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 「自分の内部に」を欠く場合は2点。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

B 「自分を包み込む大いなるものへの」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

C 「謙抑、畏怖の念が人間の内に生じ」 (3点)

○ 「謙抑」「畏怖」はいずれか一つで可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

D 「そこ(＝謙抑、畏怖の念)から自分の無力さを思い知らされ」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

E 「自分の意思では制御しがたい」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

F 「罪を犯すかもしれないという怖れを人間が抱くことになる」 (2点)

○ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

G 「…から・ため・ので」といった文末表現が原則。

▲理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

三 古文 50点

※内容説明の設問では、末尾の句点がないものは1点減点。ただし、現代語訳の設問では、文末の句読点は不問。

問一 10点

※「契沖は新墾しつれど、いまだよく植多つくさぬほどに過ぎにしこそ惜しけれ」を、隠喩表現を明らかにしつつ、適宜ことばを補って現代語訳する。

(解答例)

A〇4点

B〇3点

契沖は、国学という未開の荒地のような学問分野を切り開きはしたのだが、いまだそれを十分に世に周知させる前に 亡くなってしまうことが惜しい。 (10点)

C〇3点

■採点のポイント

- 各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。
- 句読点をうつのが望ましいが、現代語訳の設問であるから句読点の有無は減点対象としない。
- 引用文中なので、丁寧語「…です／…ます」を添加しても問題はない。それは減点対象としない。

■各加点要素の加点の条件

A 「契沖は、国学という未開の荒地のような学問分野を切り開きはしたのだが」 (4点)

※「契沖は新墾しつれど」の解釈。

○以下の①②③に分けて加点する。

①「国学という…学問分野を」(1点)

※対象「国学」の補い

○「国学を」「国学(という学問分野)を」「国学(という新しい学問)を」等の表現になっていればよい。

②「未開の荒地のような学問分野を切り開き」(2点)

※隠喩「新墾」の解釈

○「未開の荒地のような学問分野を切り開き」「誰も手をつけていない学問分野を開拓し」等の表現になっっていればよい。

③「…はしたのだが」(2点)

※「…し…つれど」の解釈

▲主体が「契沖」と判然としないものは減点1点。

○句読点をうつのが望ましいが、現代語訳の設問であるから句読点の有無は減点対象としない。

○引用文中なので、丁寧語「…です／…ます」を添加しても問題はない。それは減点対象としない。

B 「いまだそれを十分に世に周知させる前に」(3点)

※ 「いまだよく植ゑつくさぬほどに」の解釈

○以下の①②に分けて加点する。

① 「世に周知させる」(2点)

※ 隠喩 「植ゑつくさ」の解釈

○ 「それを世に周知させる」「それを完成させる」「それを成し遂げる」等の表現であればよい。

② 「いまだそれを十分に・・・前に」(1点)

※ 「いまだ―よく…ぬ―ほど―に」の解釈

○ 「いまだ充分に…ない前に」「まだ完全に…ない時に」「まだよく…ないうちに」等の表現であればよい。

C 「亡くなってしまったことが惜しい」(3点)

※ 「過ぎにしこそ惜しけれ」の解釈。

○以下の①②に分けて加点する。

① 「亡く」(2点)

※ 「過ぎ」の解釈の解釈

○ 「死ぬ」「亡くなる」等の表現であればよい。

② 「…なってしまったことが惜しい」(1点)

※ 「に―し―こそ―惜しけれ」の解釈

○ 「…ってしまったことが惜しい」「…ってしまったことが惜しまれる」等の表現であればよい。

問二 10点

※『汾上驚秋』と『秋風の辞』の内容的な決定的な違いを具体的に説明する。

(解答例)

A〇4点

B〇4点

『秋風の辞』には、昔愛した美しい女性を回想することによって、かつての若く情熱的だった季節と、すでに訪れていた老いの季節の懸隔に愕然とする自身の姿を描いて、人生の季節の推移の陰影を強調しているが、

C〇2点

『汾上驚秋』にはそれがない。(10点)

■採点のポイント

○各配点部分の中の、それぞれの〈加点要素〉があればそれを合計して加点する。

○要素が答案の中に表記されており、各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

▲説明問題なので、文末に句点「:。」がないものは、減点1点。

A 「『秋風の辞』には、昔愛した美しい女性を回想する」(4点)

※『秋風の辞』についての、「佳人を懐いて忘るる能わず」の解釈

○『秋風の辞』について、「昔愛した美しい女性を回想している」「かつての美しい女性との恋を追想している」「昔愛した美しい女性の思い出がこみ上げてくる」等の表現であればよい。

B 「かつての若く情熱的だった季節と、すでに訪れていた老いの季節の懸隔に愕然とする自身の姿を描いて、人生の季節の推移の陰影を強調している」(4点)

※「少壮幾時ぞ老ゆるを奈何せん」の解釈

○『秋風の辞』について、以下の2点を解釈したと読み取れる内容になっていれば、2点ずつ加点してよい。
①「少壮幾時ぞ」の解釈(2点)

「若く元気だった時間は短い／若く情熱的だった時間はあつという間に過ぎる／若く情熱的だった時間は短い」等の内容

②「老ゆるを奈何せん」の解釈(2点)

「自らはもう若くないことに気づいて呆然としている／いつの間にか老いてしまった自身に愕然とする／人生の儚さを慨嘆している／すでに訪れていた老いの季節の懸隔に愕然とする／人生の季節の推移の陰影を強調している」等の内容。

C 「『汾上驚秋』にはそれがない」(2点)

※『汾上驚秋』に関して『秋風の辞』にあるA・Bの内容が無いという表現。

○A・Bいずれにも得点が無い場合は得点できない。

問三 10点

※「その罪」とは、誰のどのような罪かを説明する。

(解答例)

(A↓)

B〇2点

近世の儒学者の、漢籍ばかり読み耽り、実社会のことに疎く、自身のことを東方の野蛮人などと自虐して、

C〇2点

D〇2点

E〇2点

この日本という国のよくない点ばかりをあげつらい、中国にうまれなかったことをうらむような、日本の皇祖

A〇2点

神に対する不敬の罪。(10点)

■採点のポイント

○各配点部分の中の、それぞれの〈加点要素〉があればそれを合計して加点する。

○要素が答案の中に表記されており、各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

▲説明問題なので、文末に句点「:罪。」がないものは、減点1点。

A 「近世の儒学者の罪」 (2点)

※「誰の罪か」の理解

○「近世の儒学者の罪」「近頃の儒学者の罪」「当世の儒学者の罪」等

B 「自身のことを東方の野蛮人などと自虐して」 (2点)

※「みづから夷と称し」の解釈(どのような罪か①)

○「自身のことを東方の野蛮人などと自虐して」等の表現であればよい。

C 「この日本という国のよくない点ばかりをあげつらい」 (2点)

※「この国の非をかぞへて」の解釈(どのような罪か②)

○「この日本という国のよくない点ばかりをあげつらい」等の表現であればよい。

D 「中国にうまれなかったことをうらむような」 (2点)

※「かしこにうまれぬをうらむる」の解釈(どのような罪か③)

○「中国にうまれなかったことをうらむ」等の表現であればよい。

※「かしこ」を「中国」と明記せず、「あちら」のような表現にしているものは不可。

問四 10点

※ 「真淵も甚しといふべし」で、著者伴蒿蹊が真淵のどのような思考の傾向を批判しているのか説明する。

(解答例)

A〇3点

B〇3点

C〇4点

中国の儒教思想を仇敵のように試弾して、儒教の祖である聖人孔子までをも批難するような偏狭な思考の傾向。
(10点)

■採点のポイント

○ 各配点部分の中の、それぞれの〈加点要素〉があればそれを合計して加点する。

○ 要素が答案の中に表記されており、各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

▲文末「…」句点がないものは、減点1点。

A 「中国の儒教思想を仇敵のように試弾して」 (3点)

※ 「唐土のことを仇のごといひて」の解釈

○ 「中国文化をあたかも仇敵のように悪く評して／中国の儒教思想を仇敵のように試弾して／中国の儒教をまるで敵のように貶めて」等の表現であればよい。

B 「儒教の祖である聖人孔子までをも批難する」 (3点)

※ 「孔子をさへ議することあり」の解釈

○ 「儒教の祖である聖人孔子までをも批難する／誰もが尊敬する孔子までをも批難する」等の表現であればよい。

※注に「議する＝批難する」とある。

○ この副助詞「さへ」は添加の意味なので「孔子まで(をも)」「の表現は必要。

※ 「孔子まで(をも)」「の表現が無ければ×。

C 「偏狭な思考の傾向」 (4点)

※ 「こは心狭きの故か」の解釈

○ 「偏狭な思考の傾向。／柔軟性に欠ける態度。／頑迷な考え方。」等の表現であればよい。

問五 10点

※「病を薬せんに、ここになきものはかしこに求めんに何の忌むことかあらん、ただ病のたひらぐを是とすべきのみ」を、適宜ことばを補いつつそれぞれ現代語訳する。

(解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇2点

(病気治療のため)薬を調合する時に、日本に存在しない原料を中国に求めることは、どうして忌み嫌う必要

D〇2点

E〇2点

があるうか、ただ病気が治ることだけを よしとするのが当然である。(10点)

■採点のポイント

○各配点部分の中の、それぞれの〈加要素〉があればそれを合計して加点する。

○要素が答案の中に表記されており、各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

○現代語訳の問題なので、句読点の有無は問わない。

A「(病気治療のため)薬を調合する時に」(2点)

※「病を薬せんに」の解釈

○「(病気治療のため)薬を調合する時に／例えば(病気治療のため)薬を調合するならば／(病気治療のため)薬を調合するような場合に」等の表現であればよい。

※この助動詞「ん」は、婉曲(「よくな」か訳さない)か假定(「たとしたら／ならば」)で訳す

B「日本に存在しない原料を中国に求めることは」(2点)

※「ここになきものはかしこに求めんに」の解釈

○「日本にないものを中国に求めるようなことは／日本にない物質を中国に求めたとしても／日本に存在しない原料を中国に求めることは」等の表現であればよい。

※この助動詞「ん」も、婉曲(「よくな」か訳さない)か假定(「たとしたら／ならば」)で訳す。

C「どうして忌み嫌う必要があるか」(2点)

※「何の忌むことかあらん」の解釈

○「どうして忌み嫌う必要があるか(いやない)／どうして嫌がる必要があるか(いいやないだろう)／拒むことがあるうか(いやない)」等の表現であればよい。

D「ただ病気が治ることだけを」(2点)

※「ただ病のたひらぐを」の解釈

○「ただ病気が治ることだけを／ただ病気が治癒することだけを」等の表現であればよい。

※この「たひらぐ」(四段)は自動詞であるが、「ただ病気を治すことだけを」等と「たひらぐ」を他動詞(下二段)に解釈してしまったものも可とする。

E「よしとするのが当然である」(2点)

※「是とすべきのみ」の解釈

○「よしとするのが当然である／よしとするのが妥当である／よしとするのが必然だろう」等の表現であればよい。

○「是とす」は、「よしとする／正しいと認める」等の表現ならば可とする。

○この助動詞「べき」は当然・適当で訳す。

▲「べきだ」は訳していないと見做して減点1点とする。

○この副助詞「のみ」は強意・強調の意味であるが、訳に反映させなくともよい。
